

「横須賀市立高等学校の在り方について（答申）」
において示された方向性に関する報告



令和4年3月
横須賀市教育委員会

はじめに

平成 26 年 8 月に横須賀市立高等学校教育改革検討委員会から提出された「横須賀市立高等学校の在り方について（答申）」では、横須賀総合高校が目指す 2 つの学校像を実現するための取り組みとして、「短期的に取り組むこと（5 年以内）」と「長期的に取り組むこと（5 年以上）」に分けて示された。

これを踏まえ、横須賀総合高校では、質の高い中等教育を具現し、特色ある学校教育の充実を図っている。併せて、「横須賀市教育振興基本計画（第 3 期実施計画）」目標 1 の施策（1）「教育活動の充実」における事業「横須賀総合高等学校教育改革事業」の一環として、「横須賀総合高等学校教育改革検討ワーキングチーム会議」（令和 2 年度から「横須賀総合高等学校教育改革推進会議」に改称）を開催し、横須賀総合高校と教育委員会が一体となり、答申で示された取り組みに対する検討を進めてきた。

本報告は、答申に対するこれまでの実施状況や取り組み状況等についてまとめ、報告するものである。各取り組みについての状況については、それぞれ「2 答申に示された取り組みの状況」のとおりであるが、特に「長期的に取り組むこと（5 年以上）」については、今後の方向性についても併せて示し、令和 4 年度からの新たな「横須賀市教育振興基本計画」のもと、引き続き横須賀唯一の市立高校として、横須賀総合高校の特色ある魅力的な教育の推進を図ることとする。

1 市立高等学校の目指す学校像

答申には、現在までの総合学科の高校としての成果に鑑みて、総合学科の特徴の一つである生徒の幅広い教育ニーズに応えることができる学校の在り方は、今後も継続し、さらなる教育の充実を図っていく必要があると示されている。

また、横須賀唯一の市立高校であることから、「横須賀の子ども像」である『人間性豊かな子ども』の具現化を図っていくことを念頭に、横須賀総合高等学校が目指す学校像として、次の2つが示されている。

1 生徒一人一人の自己実現を図り、キャリア意識を育成することのできる学校

開校より総合学科の設立理念にのっとりた教育活動を通して、個性化・多様化・弾力化のキーワードをもとに、柔軟な教育課程システムを構築し、生徒にその選択能力をつけるためのキャリア教育を推進してきた。そのことを踏まえ、さらに生徒の幅広いニーズに応え、創造性や社会性の向上とキャリア意識を育成することのできる学校としての取組を進めていく。その中で、生徒一人一人の自己実現を図ることが可能となるよう、文化・スポーツ活動等、多方面にわたって生徒自身が自主的・主体的に取り組むことのできる学校としての役割をさらに充実させる。また、キャリア形成は他者や社会との関わりの中で行われるものであることから、横須賀唯一の市立高校として、異校種や家庭・地域との連携を図りながら、地域に根ざした学校を目指して活動し、郷土愛を育むことのできる学校としての役割を果たす。併せて、生涯学習機関として、その施設設備や人的資源を活用できる学校を目指す。

2 国際社会において活躍できる自立した国際人となることのできる学校

開校より特色ある取組として継続してきた国際教育をさらに進めるとともに、「国際海の手文化都市」を標榜する横須賀市の特色に対応した、自立性と多様性を身につけた国際人の育成を行う。そのために、一定レベルの英語を使える生徒の育成を図るとともに、留学ができるなど国際性を養うことのできる学校を目指す。また、一人一台のパソコンを持ちながら、日常ビジネスで利用するスキルを身に付けさせてきたことを基に、情報リテラシーの高度化と情報セキュリティーに留意する力を身に付け、情報環境の変化に対応でき、コミュニケーションツールとしてこれらを活用し、プレゼンテーション能力を高めるなど、国際人を育成できる学校を目指す。

2 答申に示された取り組みの状況

(1) 短期的に取り組むこと（5年以内）

取組名	① 総合学科の特色を生かした教育の充実
提言概要	<p>総合学科の教育の特色である「キャリア教育を中心とし、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視する。」「生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にする。」を重視した教育活動を充実させる。</p> <p>「産業社会と人間」や「羅針」の学習等における具体的な取り組みを検討し、キャリア教育を充実させるとともに、生徒一人一人の自己実現を図る。</p> <p>また、多くの生徒のニーズに対応していくため、学力向上の取り組みを一層充実させる。</p>
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」も含めた、総合的な探究の時間「羅針」を軸とした3年間を見通したキャリア指導計画の構築及び検討を行った。 ○自己実現につなげる場として、市内事業者におけるインターンシップを実施した。 ○生徒の幅広いニーズに対応する、専門性の高い授業を充実させるための大学等との連携を強化した。 ○進学指導支援のため、「櫻倶楽部」の設置、勉強合宿の実施、受験サプリの利用等を行った。 ○学力向上に係るフロンティア研究委託（全日制）及び高等学校教育課程研究会等、教員の授業力向上及び生徒が身に付けるべき学力の確実な定着に資する取り組みを充実させた。

取組名	② 単位認定等を含めた大学等との連携強化
提言概要	生徒一人一人の幅広いニーズに応えるため、現在全日制、定時制の相互で行われている単位認定や、通信制高校・各種学校・大学等の単位認定等について、より一層連携強化する。
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○高大連携等の取り組みの強化を継続的に行った。 ○定時制においては、市内事業者におけるインターンシップやボランティア活動が、単位認定されるようになった。

取組名	③ 支援教育の充実
提言概要	現在の定時制課程における不登校傾向など、支援を必要とする生徒へのいねいな指導は、生徒・保護者からの評価も高く、支援教育の視点をもった取り組みを、今後も継続していく。
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○校内支援委員会の定期的な開催を通して、支援を必要とする生徒の情報共有及び具体的な支援方法等の検討と実施を継続して行っている。 ○車いすや介助を必要とする生徒に係る介助員を配置している。

取組名	④ 部活動の充実
提言概要	部活動については、技術はもとより、生徒が自主的・主体的に取り組めるよう、専門的な知識や技術をもった講師やコーチの派遣を行うなど、さらなる活性化を図る。
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○運動部活動、文化部活動への講師派遣を継続して行っている。 ○運動部活動に対する栄養指導の支援を行った。(県立保健福祉大教授による講演や指導等)

取組名	⑤ 郷土愛を育む教育の充実
提言概要	横須賀唯一の市立高校として、地域の行事参加への要望も多く、現在もそのニーズに応えている。これからも地域社会から愛される学校を目指し、郷土愛を育むことのできる学校としての取り組みの充実を図る。
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○久里浜地区の町内会や商店街と連携した取り組み（美術部・生徒会など）や、ローズフェスタ等の市内イベントに積極的に参加（ダンス・吹奏楽・箏曲など）している。 ○定時制においては、郷土の歴史等を学ぶ科目を設置した。 ○令和4年度からの新しい教育振興基本計画策定に関わり、「横須賀市教育フォーラム」に代表生徒が参加し、今後、横須賀市の目指す姿について市民と議論を行った。

取組名	⑥ 情報教育の充実
提言概要	在校3年間の情報教育で、社会に出たときに必要なスキルを身に付けさせるとともに、コミュニケーションツールとして、これらを活用することで、国際人として活躍できるよう、より一層情報教育の充実を図る。
取り組みの成果	○全日制においては、開校以来、1人1台のタブレットパソコンを所持していることおよび校内無線LANの整備により、情報教育の充実に向けての実践と研究が進められてきており、各教科の授業等の場面において、有効的な活用がなされている。

取組名	⑦ 英語を活用できる生徒の育成
提言概要	「国際海の手文化都市」を標榜している横須賀市として、国際人として活躍できるバランスのとれた人づくりを進めていく必要がある。そこで、在校3年間でTOEFLやTOEIC等で一定レベルの技能検定がとれるなど、英語を活用できる生徒の育成に努める。
取り組みの成果	○一定レベル以上の英語を使える生徒の育成のため、取得した英検レベルによって単位に反映させたり、FLTを中心とした英検取得に向けた指導を実施したりするなど、検定試験等の活用や取得の推進に向けた取り組みの充実を図ってきた。

取組名	⑧ さまざまな外国語を学ぶ機会の充実
提言概要	<p>現在、選択科目として英語とフランス語が設置されているが、その選択の幅を拡大するため、中国語や韓国語など様々な語学科目を設置できるとよい。さらに、文部科学省でも高校生の海外留学の促進を図っており、留学しやすい環境の充実を図る。</p>
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の開講科目の拡大を行った。(韓国語) ○世界津波の日高校生サミットに参加した。 ○キニックハイスクールへの短期留学やエラノラ高校との交換留学を実施した。 ○国際交流機会の拡大に向け、校内でも外国の文化に触れる機会として、積極的に留学生や外国からの訪問を受け入れた(中国、フィリピン、ドイツ、エストニア、フランス、韓国等)。

取組名	⑨ 新任教員を採用する方策の検討
提言概要	<p>学校が充実した教育活動を行うためには、熱意があり、指導力のある教員が不可欠である。教科以外の授業の担当や様々な進路指導への対応など、総合学科の教員の負担は大きい。そのためにも、若い教員を採用し、育てていく視点が必要であり、新任教員を採用するための方策を、県教育委員会と調整するなど早急に検討し、その仕組みを確立する。</p>
取り組みの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度の採用から、神奈川県教員採用試験受験者のうち、希望者を横須賀市立高校へ配置できるようになった。 ○新採用教員の研修(初任者研修)については、必要な部分を神奈川県教育委員会の協力を仰ぎながら、横須賀市教育研究所においても、本市の他校種の初任者と共に、研修内容の充実を図っている。

取組名	⑩ 人事異動の活発化を図る方策の検討
提言概要	人事異動によって、学校の活力が生まれたり、人材が育成されたりすることも考え併せると、教員の人事交流の観点から、県立高校からの人事異動を活発化する必要があると、県教育委員会との調整が必要である。なお、中学校と高等学校の間の接続が課題とされていることから、市立中学校からの人事異動も同時に活発化させる。
取り組みの成果	○市内中学校との人事異動を実施した。 ○令和3年度から、県立高等学校との人事交流を開始している。

取組名	⑪ 教員の研修の充実
提言概要	これからの横須賀総合高校を担う教員に対しては、教科指導の専門性を高める研修だけでなく、キャリア教育をより充実させるための研修や、国際人の育成を図るために外国の教員と交流したり、海外で長期の研修を受けたりするといった研修も考えられるとよい。
取り組みの成果	○エラノラ高校への短期留学に合わせた海外研修を実施した。 ○県立高校教諭対象の研修や県立高校教育課程研究会等に参加した。 ○横須賀市教育研究所においては、高校の新採用教員の配置を見通し、新たな研修体系の構築を行った。

取組名	⑫ 広報活動の充実
提言概要	市外からも約3割の入学生がある中で、総合学科としての就職や進学に対するていねいな進路指導や横須賀総合高校に入学してからの生徒の活動状況など、横須賀総合高校の魅力や実績を、市内はもとより県内に広く発信する。 学校説明会、中学校への訪問、ホームページでの発信など現在の取り組みをさらに充実させるとともに、中学校の教員が総合高校の特徴について理解でき、自校の生徒に説明できるような広報活動を行っていく。
取り組みの成果	○学校ホームページのコンテンツの充実を図った。 ○横須賀市教育委員会の発行する市民向け広報紙に横須賀総合高校の取り組みや活躍の様子を紹介し、その内容を市教委ホームページでも発信した。 ○教育課程研究会や研究委託における研究授業を公開し、その情報を県立高校・横浜市立高校・川崎市立高校・近隣の私立高校にも広く周知を行った。 ○市内外の近隣中学校からの依頼・要望を受け、生徒向け進路説明会やPTA向けの学校説明会に参加し、学校の紹介を行った。

(2) 長期的に取り組むこと (5年以上)

<p>取組名</p>	<p>① ユネスコスクールへの加盟の検討</p>
<p>提言概要</p>	<p>目指す学校像の「国際社会において活躍できる自立した国際人となることのできる学校」に迫るための方策として、ユネスコスクールに加盟することがあげられる。</p> <p>ユネスコスクールは現在、世界 181 ケ国に、9,000 校以上あり、①地球規模の問題に対する国連システムの理解、②人権、民主主義の理解と促進、③異文化理解、④環境教育といったテーマについて、質の高い教育を実践することを目指している。ユネスコスクールに加盟することで、世界のユネスコスクールの活動情報の提供を受けることができ、これらと交流する機会も増加する。また、アメリカ・韓国・中国等海外との教員交流や ESD (持続開発教育) の教材、情報の提供が受けられるといった「国内の連携強化」「国際交流の機会の増大」が期待でき、横須賀総合高校の教育活動を一層充実させることができる。</p>
<p>取組状況 ・現状</p>	<p>○令和元年5月に加盟に適する評価を受け、チャレンジ期間が終了した。</p> <p>市教育委員会及び県教育委員会を通じて日本ユネスコ国内委員会に活動報告書を提出する等、令和元年6月に加盟に向けた申請手続きを行った。</p> <p>○申請手続き完了後、現在も加盟の正式な認可待ちの状態となっているが、「ユネスコスクール・キャンディデート」(チャレンジ期間を終了し国内審査を終え、ユネスコ本部に申請中の段階にある学校のこと)として、県内のユネスコスクール(キャンディデート校も含む)との会合への参加、およびSDGsに関連した組織と連携した取り組みを継続して実施している。</p>
<p>今後について</p>	<p>○加盟に関する正式な認可が下り次第、ユネスコスクールとして、県内外のユネスコスクールとの連携を図りながら、具体的な取り組みを推進していく。</p>

取組名	② スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）研究委託の検討
提言概要	<p>文部科学省では、平成 26 年度より、高等学校等において、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）」事業が開始された。平成 26 年度は、全国で 56 校が 5 年間の指定を受け、この取組を始めている。これらの学校の取り組みを参考に、横須賀総合高校が独自の計画を立て、SGHを目指すことも考えられる。この取り組みについては、文部科学省の指定を受けるということから、それ以前に十分な準備が必要である。</p>
取組状況・現状	○平成 29 年度以降新たなSGH指定校は無く、平成 26 年度～平成 28 年度の間に指定された学校を中心とした成果の周知等が行われている状況である。
今後について	○SGHとしての新規募集は行われていないため、研究委託の検討の取り組みとしては実施しないが、公開されているこれまでの研究委託校の実践の結果を参考にするなどの視点も視野に入れながら研究を進めていく。

取組名	③ 国際バカロレア（IB）認定校の検討
提言概要	<p>国際バカロレア（以下、「IB」という）認定校を目指すことも考えられる。現在、文部科学省は、今後 5 年間で IB 認定校を 200 校に増やすことを目指しており、IB 教育で培うことのできる「コミュニケーション能力」や「主体性」「協調性」「チャレンジ精神」などは、国際人の育成を掲げる総合高校が求める生徒像と一致するものである。この IB 認定校となるためには、教育課程の編成、教員の確保や施設・設備の充実など、多くの課題があることも含め、検討する必要がある。</p>
取組状況・現状	○IBに関する神奈川県教育委員会の研修会への参加や、IB認定校の取り組みに関する情報収集などにより、研究を行っている。
今後について	○国際人の育成については、横須賀総合高校の教育指導方針と一致する一方、横須賀総合高校では「総合学科」の高校として、それだけにとどまらない視点において、市内私立高校における取り組みにも目を向けながら、生徒一人一人の個性を生かせる今後の在り方を引き続き検討していく。

取組名	④ 特色ある入学者選抜制度の検討
提言概要	横須賀総合高校が発展していく中で、入学する生徒の適性についても、今後の検討が必要である。平成 25 年度入学生から、現在の入学者選抜制度になっているが、県立高校と同じ選抜機会で行うことを前提に、部活動の活発化や、特に市内入学生の一層の増加を図るために、横須賀総合高校の特色を出せるような入学者選抜制度の条件整備を考えていくことも必要である。
取組状況・現状	○これまで、神奈川県内の公立高校の入学者選抜における選抜方法・基準に合わせた方法で入学者選抜を実施してきた。
今後について	○平成 28 年度から進められている県立高校改革実施計画の進捗状況等との整合性を図りながら、検討を進めていく。

取組名	⑤ 広く市民も活用できる学校の検討
提言概要	横須賀唯一の市立高校の役割として、生涯学習機関としての役割や地域と連携した取組をさらに進め、特に社会人に関わるビジネス関係、コミュニケーション能力の育成などといったビジネス系列や工学系列を、在学生だけでなく受講できるような仕組みづくりや、それらの情報を発信していく中で、さらに地域社会に愛され共存できる学校を目指していく必要がある。そして、その施設設備や人的資源を広く市民が活用できる学校としての役割を果たすことを目指していくことも必要である。ただし、その活用にあたっては、高校の教育活動の充実を優先して考えなければいけない。
取組状況・現状	○全日制と定時制が併設されているため、ほぼ一日中校舎の各施設を生徒が利用している状態であるが、これまでも、全日制・定時制とも、教育課程に支障が無く、使用可能な教室や設備については、市の依頼を受けて積極的に開放してきている。
今後について	○今後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況の改善及び生徒数減の状況を鑑みながら、引き続き検討する余地はあるものと考えられる。 ○その際、これまでより広く市民に開放することを検討するのであれば、使用可能な時間帯や責任の所在を明確にした上で、学校の教職員に負担のかからないような仕組みを構築していく。

取組名	⑥ 長期的視点にたった人事配置の検討
提言概要	横須賀総合高校が今後より発展していくためには、「短期的に取り組むこと」の新任教員を採用する方策を検討するとともに、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」で定められた人数だけでなく、多くの教員を確保できるとよい。併せて、管理職の人事配置についても、現在は2～3年で管理職の人事異動が行われており、長期的視点にたった学校経営を考えると、その展望を考えた人事配置が必要である。
取組状況・現状	○現在、既に8系列で100を超える科目を開講できるだけの教職員が配置されている。
今後について	○教職員の平均年齢や横須賀総合高校での在籍期間等も踏まえ、長期的視点において教員のバランスのとれた確保のため、既に始まっている県立高校との人事交流の制度等を積極的に活用していく。

取組名	⑦ 「特区制度」の活用の検討
提言概要	人事制度の課題、組織マネジメントの課題、教員スキルの課題等の克服を図り、目指す学校像を現実化するためには、政府が進める「特区制度」を活用することも視野に入れて、検討する必要がある。
取組状況・現状	○県教育委員会との人事交流の開始、教職員の研修の充実等の取り組みにより、提言概要にある内容についても改善等につなげることができている。
今後について	○今後も「特区制度」の活用についても視野に入れ、目指す学校像の具現化を図っていく。

取組名	⑧ 中高一貫教育校としての制度改編の検討
提言概要	<p>横須賀総合高校が横須賀唯一の市立高校であることから、「横須賀の子ども像の実現」を期待され、市民の誇りとなるような学校が望まれている。</p> <p>中高一貫教育校が、横須賀市において設置されれば、「横須賀の子ども像の実現」、「中等教育としての在り方」、「他の中学校と高等学校との接続」、「教員の質の向上」など、様々な役割を果たすことが期待できる。</p> <p>中高一貫教育校の設置については、横須賀総合高校の目指す学校像を実現するための取り組みとして検討したものであり、どのような中高一貫教育校を設置するのかについては、検討委員会でも議論を尽くしていないので、様々な意見を聞き、十分な議論をした上で、選択していくことが必要である。</p>
取組状況 ・現状	<p>○平成 25 年度から平成 28 年度にかけて中高一貫教育校の視察を行い、情報を収集しながら、方向性の検討を進めてきたが、中等教育学校の開校、併設型や連携型の中高一貫教育校が増える傾向が見られないなど、答申が出された頃との状況の変化が見られている。</p>
今後について	<p>○児童生徒数が減少傾向である中、新たな学校の建設や現在ある学校施設の改築は困難な状況であり、中等教育学校や施設一体型での設置は考えにくい状況となっている。</p> <p>○併設型・連携型への移行については、教育課程の編成や教員の配置等、今後整備していかなければならない課題が数多くある。</p> <p>○中高一貫校とした場合、概ね中学からのみの入学となり、高校からの募集が無くなる（あるいは現在より高校からの入学定員が大きく減少する）ことが想定されるため、現在、県内各地から横須賀総合高校への進学ニーズがある中、「連携中学校」以外の市内中学校や、市外の中学校からの進学が難しくなるといった弊害が考えられる。</p> <p>○中高一貫教育校としての制度改編については、今すぐに取り組むのではなく、県内の中高一貫教育校における教育的効果の把握に努めるなど、今後の研究課題とする。</p>

横須賀市教育委員会事務局
教育総務部 教育政策課

住所 〒238-8550 横須賀市小川町 11
TEL 046-822-9709 (政策担当)
FAX 046-822-6849 (教育委員会事務局 共通)

